

私たちが伝えていく

佐々木中学校 三年 五十嵐 清華

私は、原子爆弾が投下されてから七十二年
が経った広島を訪れ、平和記念式典に参加し
てきました。私はそこで、原爆ドームや被爆
者の残した物を見て、そして今を生きる広島
の方々のお話しを聞き、恐怖や悔しさ、苦し
みを感じました。当時広島で暮らしていた人
々やその家族はどれだけ悲しい思いをしたこ
とでしよう。
毎日家族や友達に会えること。毎食お腹い
っぱいご飯を食べられること。お腹の底から
声を出して笑えること。今では当たり前な事
ですが、広島で多くのことを学び、感じて、
これほどとも幸せなことだと実感しました。
そして改めて戦争は辛く、原爆は恐ろしい物
だと感じました。
一瞬の出来事で焼け野原となった広島は、
七十年間草木が生えないと言われていたよう
です。しかし、七十二年経った今、広島
の町にはたくさんのおい茂り、花が咲いて
いました。この奇跡の裏側には、多くの人の

願いや努力があったのだと思います。そのお
かゆで今広島は素敵な町を取り戻しました。
唯一の被爆国である日本。伝えていくべき
ことは山ほどあります。私たちが実際に被爆
された方のお話を聞ける最後の世代だとい
事を聞きました。これからは私たちが語り手
となっていくのです。戦争も核兵器も不要
なものというのを、何十年、何百年が経
つても語り継がれていくよう、私は一人でも
多くの人に自分の感じたことを伝えていた
いです。